

知らずのことほある

十年くまの事のこと

一人のハルハルを他ハルハルと昔に

白といふ人にと思つていた

万歩と上を石の正と

十世二千くういれ印の正とんが

石陽に入つていて ぼけろの

ハニハニか は おじかろの 100 羽を

細くきく

京料が 何だろるか わかると

きざんである

そわがすーブルにのうてく

心の甲で 何だろと 思つていた

午にたつて 勝手な事と したと 反省し

てい

彼母は 知らずのこと

十年昔 そろそろに 思ふなわつた

どうして ころろか 思つていた

知ろすやれは 何だろ

と思ふ事か 心がミシエり だろ

私たゝて 知るやうにとは 多くある

現在どうなる

知うやうのた 一生懸命の彼女に

大妻ののた よくやうてふれていゝ

と 思ふにたのた

今どうしてりゝか 留

あう 4⁷ヤニス¹ かあう たあ

はあしとし

竹葉つをすかせたい

2025
7/21